

自学共育

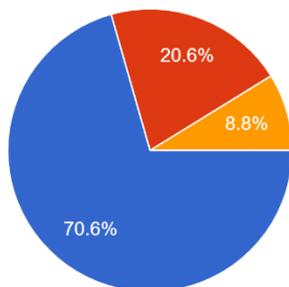
子どもが**主体**の学校づくり

栄小中合同通信No. 8 2025. 6. 9

運動会アンケートより

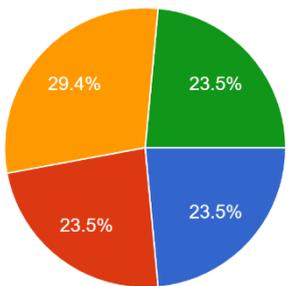
運動会の参観及び、アンケートへのご協力ありがとうございました。保護者・地域の皆様からいただいた声をこれからの学校運営や来年度の運動会に生かしていきたいと思えます。

1 子どもは自分達が考え、準備してきた運動会にイキイキ取り組んでいる。



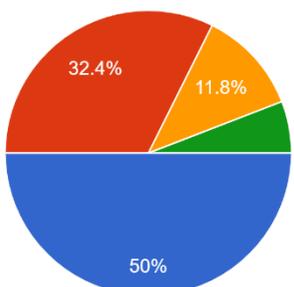
子ども達のイキイキとした姿について、90%以上の皆さんに肯定的な回答をいただきました。子どものイキイキとした表情は、私達にとっても嬉しい姿です。この運動会を、当事者として自分達が創る楽しさを感じてくれたことが最も大きな成果です。来年度もイキイキワクワクの運動会にしたいですね。

2 子どもの負担が大きいのではないかと心配になる。



前回もお伝えしておりますが、この点が今回の運動会の最も大きな課題と言えます。実行委員を中心に一部の子ども達の負担が大きくなってしまいました。中心に活躍した子ども達の中には、大変過ぎて十分楽しめなかったという子もいます。「教師を含めた仕事分担」「準備開始時期」等一緒に検討していきます。

3 子どもが「1」から創る運動会に価値や魅力を感じる。



子どもに任せる運動会の価値については、80%以上の皆さんに肯定的な回答をいただきました。一方で、必要性に疑問を感じていらっしゃる皆さんもいらっしゃるのではないでしょうか。なぜこのようなチャレンジを行っているのかに関わるところですので、裏面にて改めて考えていきたいと思えます。

「子どもが『1』から創る運動会」にチャレンジの理由

以前の合同通信において「主体性を育てる」ことを目的にしているとお知らせしました。では、なぜ「主体性を育てる」ことが重要なのでしょうか。ここで、「主体性が育つことで見えてくるであろう家庭での変化」や「将来の生活や働き方とのつながり」について、ポイントを整理したいと思います。

まず、「主体性」が育ったとき、家庭で見えてくる変化をAIに聞いてみました。

学習計画を自分で立てる	身支度がスムーズに	スクリーンタイムの自己管理
家事の提案型協力	兄弟・友達との衝突を自力解決	健康意識の向上
将来のミニ目標設定	失敗の振り返りメモによる改善	

「家でこんな子どもの姿が増えたらいいな」そんな声も聞こえてきそうです。さらに、こうした日常の変化を“10年後・20年後の社会”にスライドさせて想像してみましょう。

かつて（～2000年代）	これから（AI・副業時代）
正解が用意されている仕事が主流 →マニュアル通りに速く・正確にこなす人が高評価	正解を“創る”仕事が増 →課題を自ら設定し、試行錯誤で答えを探す力が不可欠
終身雇用・年功序列が前提	転職・副業・学び直しが当たり前 →スキルを自分で更新し続ける時代
技術革新はゆるやか →1つ覚えれば長く使えた	技術が年単位で激変 →AIや新サービスを“どう活かすか”を自ら考える力が必須

このような社会で「主体性」が高まることで得られる〈2大メリット〉

1 仕事・学び面のメリット

- ・課題発見→解決までを自走できるため、異動や転職後も早期に活躍。
- ・調査では、主体性を重視したクラスは理解度が平均7～10ポイント向上。
(県内外5校の実践より)

2 生活・幸福面のメリット

- ・失敗を“次の手”に変えるメンタルのしなやかさが育つ。
- ・自己決定が増えるほど幸福度が高まる——心理学の自己決定理論でも報告。

今回の運動会では、遅れた進行を自分たちで修正する、競技内容をその場で調整する——そんな主体的な姿が随所に見られました。激変する社会では、大人の助言が十年後も通用するとは限りません。テスト勉強は重要ですが、同じかそれ以上に「主体性」を計画的に育てることが不可欠です。自分で考え動く「主体性」こそ、これからの最大の武器になります。

本校の自由進度学習は教室で主体性を鍛える仕組みでもあります。運動会のような行事は、練習場面を含めその力を試す舞台とも言えます。《計画→実行→振り返り》を授業と行事で往復させ、判断力と責任感を高めていきます。

ご家庭でも「来年はどんな運動会にしたい？」と問いかけ、子どものアイデアを後押ししていただくとありがたいです。学校と家庭が伴走すれば、子ども達の「どんな社会でも自分らしく学び・働き・暮らせる力」を伸ばすことができます。引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

(文責：田中新一)